

2021年最初の米非農業部門雇用者数は大きく減速見込み～米雇用統計

2021年1月4日(月)

米国では先月からワクチンの接種が始まったとはいえ、新型コロナウイルスの感染第3弾の勢いが止まっておらず、米国の感染者数は年明け1月1日に2000万人の大台を超えました。死者数は3日に35万人を超えてきています。

一日当たりの新規感染者数は2日に29万9千人と30万の大台に迫る勢いとなっています。ICUなどの余裕のなさも相当深刻な状況となっており、全米各地で厳しい行動制限などが再開されています。

こうした状況は米経済の根幹を成す米雇用にも厳しい影響を与えています。12月4日に発表された11月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が24.5万人増にとどまりました。10月の61.0万人増(改定値、速報時点では63.8万人増)から一気の伸び鈍化。事前予想は46.0万人増でしたので、予想と比べてもかなり厳しい水準です。

パンデミックの影響で米国の雇用統計、非農業部門雇用者数は3月に137.3万人減、4月に過去最大となる2078.7万人減と大きく落ち込んだ後、順調な回復を続けてきました。6月の478.1万人増をピークに伸び自体は低下していますが10月時点で61万人増と、パンデミック前ではまず見られなかった水準での回復が記録されていました。しかし11月分は予想を大きく下回り、パンデミック前でも好調な月だと普通に見られた水準程度の雇用増にとどまっています。5月以降、雇用全体の回復を支えてきた小売部門が7か月ぶりに前月比マイナスまで落ち込み、雇用全体を押し下げました。

小売部門以外ではレジャー＆ホスピタリティ部門(レストランなどの飲食関係、ホテルなどのアコモデーション関係、劇場・カジノなどのエンターテインメント関係からなる部門)の鈍化が目立ちました。同部門は3月4月で800万人以上の雇用が失われ、部門全体の雇用がほぼ半減。その後、一転して大きな回復となり、6月などは1日で200万人近い雇用増を記録。10月時点でも27万人の雇用増となっていました。しかし11月分は3.1万人増まで伸びが鈍化しています。

これらの部門は新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンの影響を受けやすい部門です。12月に入ってレストランの屋内営業(より厳しい地域では屋外営業も)禁止が各地で指示されるなど、これらの部門をめぐる状況が悪化しているだけに、今回はさらに厳しい数字が出てくる可能性があります。

事前予想は8万人増となっています。何とかプラス圏は維持も、パンデミック前でも弱めの水準です。基準日である12日を含んだ週間ベースの新規失業保険申請件数は88.5万件と、11月の同時期の74.2万件を大きく上回っており、厳しい状況が意識されます。追加経済対策の成立が年末まで遅れたことで、基準日前後では先行き不透明感が広がっていたことも雇用にも厳しい影響を与えたとみられます。

4月の14.7%をピークに7か月連続で低下してきた失業率も、予想は6.8%と11月の6.7%から悪化見込みです。失業率に関しては前回労働参加率が61.5%と10月の61.7%から鈍化した下での0.2%の改善(6.9%から6.7%)と、あまり好印象ではありませんでした(労働参加率の低下は、見かけ上は失業率を押し下げます)。今回労働参加率がさらに低下して失業率も悪化すると、かなり厳しい印象を与える可能性があります。

予想前後もしくはそれより弱い結果が示されると、米経済への警戒感につながり、リスク選好が優勢な現状の流れに対する調整が強まる可能性があります。ただ、長期金利の長期低迷期待が広がるため、リスク警戒でのドル買い円買いの中でドル買いの動きは限定的なものにとどまりそう。円高主導で、ドル円、クロス円の売りが目立つ展開が見込まれるとみられます。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド